

# 伊賀市スポーツ推進計画 取組計画シート

総合目標値：成人の週1回以上のスポーツ実施率(53.6%⇒65.0%程度) 計画期間：2022(令和4)年6月～2027(令和9)年3月(5年間)

## 1 基本目標 スポーツを「する」 スポーツ人口の拡大

成果目標：市民スポーツフェスティバルの参加者数(1,623人⇒2,000人〔令和8年度〕)

### 【施策1】生涯スポーツの普及と推進

ライフスタイルに応じたスポーツ活動を推進し、心身の健康増進を図る

#### ①子どものスポーツ活動

評価A:達成できた(90%以上)  
 評価B:ほぼ達成できた(60%～90%未満)  
 評価C:あまり達成できなかった(30%～60%未満)  
 評価D:達成できなかった(0%～30%未満)  
 評価E:その他(特別な事由により実施見合わせ・困難)  
 評価F:コロナ禍で中止または延期した  
 評価G:コロナ禍で一部中止または一部延期した

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A～G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
1	スポーツ少年 団運営事業	スポーツ振興課	少年期から幅広いスポーツに親しみ、体を動かすことの楽しさに触れることで、スポーツ活動を通じた子どもたちの健全育成を図ります。	青少年スポーツ活動育成事業	・スタートコーチ制度移行へ向けた情報提供及び養成講習会の開催(4回) ・人権(ハラスメント)講習会の開催(1回)	指導者の資質の向上を図り、指導力の強化が行える	・情報提供及び養成講習会の開催 ・人権講習会の開催	B		指導者の資質向上のため研修会等を継続開催する。	・スタートコーチ情報提供及び養成講習会の開催(4回) ・人権(ハラスメント)講習会の開催(1回)
		スポーツ少年団			・各単位団における日々のスポーツ活動(36団) ・本部長杯種目大会の開催(3回 300人) ・駅伝大会やスポ少大会などの合同大会の開催(2回 400人) ・県、東海大会への参加 ・加入案内パンフレットの作成	体力向上や単位団同士の交流、スポーツをするきっかけが提供できる。	・単位団数 ・本部長杯種目別大会の開催 ・軟式野球(7団103人) ・サッカー(11団179人) ・バレーボール(11団108人) ・合同大会の開催 ・スポ少大会(11団102人) ・駅伝大会(22団389人) ・交流会(8団111人) ・県、東海大会への参加 ・加入案内パンフレットの作成	A	少子化により団員数が減少傾向にある中、継続してスポーツ少年団の認知度を高め、スポーツをするきっかけづくりとして活動を推進する。	・各単位団における日々のスポーツ活動(36団) ・本部長杯種目大会の開催(4回 500人) ・駅伝大会やスポ少大会などの合同大会の開催(3回 700人) ・県、東海大会への参加(7回) ・加入案内パンフレットの作成(4,000部)	
2	総合型地域ス ポーツクラブの 運営	総合型地域スポーツ クラブ	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	スポーツ教室開催事業	・各クラブでの教室開催(6団体 350人) ・ブロック別ミーティングへの参加	地域の身近な環境でスポーツを実施できる。	・教室開催 神戸(3B体操スロートレーニング教室 49人) ・フューチャーズ(ルディックウォーキング 235人) ・府中(健康体操・3B体操 44人) ・大山田(親子カヌー 20人 ヨガ教室 25人 ・トランポリン教室 9人 ピラティス体験会 11人) ・ブロック別ミーティングへの参加	B	クラブの認知度向上を図り、活動への参加者を増やす。 また運営を行うスタッフが不足していることから指導者の育成を行う。	・各クラブでの教室開催(6団体 500人) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人)	
		スポーツ振興課			クラブ運営への助言	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加 ・クラブ協議会の開催(2回) ・クラブ認知度の向上のためのインセティブの検討	訪問を通じて県内の他クラブの運営ノウハウなどを提供し、クラブ運営の強化を図る。	・各クラブ訪問の実施 ・ブロック別ミーティングへの参加 ・連絡協議会の開催 ・クラブ認知度の向上	A	クラブの認知度を高めるため、継続した情報発信の強化や、適切な運営に努める。 また事業に参加するきっかけの仕組みとしてインセティブ付与など検討する。	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人) ・クラブ協議会の開催(3回) ・クラブ認知度の向上のためのインセティブの検討
3	B&G海洋セン ター活用事業	スポーツ振興課 三重県B&G連絡協 議会 指定管理者(伊賀市 文化都市協会)	B&G海洋センターを活用した事業を行います	スポーツ振興事業	B&G指導員を核として、プールや艇庫などの既存施設を活用した参画型の事業を開催する。	普段体験できない遊びを通じて、参加者間の仲間づくりや、体力の向上を図る。	BG塾 阿山(カヌー教室 17人) 大山田(シャワークライミング 17人) オリア写真展 砂ASOBeach(県連絡協議会事業) 水辺の安全教室 阿山(2校 343人) 大山田(3校 321人)	A	施設機能を活用した自主事業の拡充を図る。	B&G指導員を核として、プールや艇庫などの既存施設を活用した参画型の事業を開催する。 ・BG塾(50人) ・水辺の安全教室(750人) ・その他各種事業	
4	レクリエーシ ョンスポーツの 普及	スポーツ推進委員 住民自治協議会	レクリエーション協会などと連携し、子どもが気軽に参加でき、家庭で楽しめるレクリエーションの普及を行います。	スポーツ推進委員活動事業	・自治協議会のスポーツ部会等への参画 ・地域行事での実技種目の指導(指導地域数:6地域)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を提供できる	・スポーツ部会への参画 ・地域行事での実技指導	D	身近な環境で気軽にスポーツを楽しむ環境の一つとしてスポーツ推進委員派遣事業を検討し、令和5年度より実施	新事業として実施する派遣事業の周知、スポ推の認知度向上のため情報発信を強化する。 また、実技研修会を実施し、各委員のスキルの向上を図る。	・自治協議会のスポーツ部会等への参画 ・地域行事での実技指導(派遣地域数:6地域) ・実技研修会の開催(3回/年)
		スポーツ振興課 スポーツ推進委員		スポーツ推進委員活動事業	・三重県及び市主催の実技、リーダー研修会(参加者数:20人) ・レクリエーション協会などと共同した体験会の開催(2回)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しむ環境を提供できる	・実技研修・リーダー研修への参加 (ポッチャ、カローリング研修会) ・レクリエーション協会連携事業の開催	A	スポーツ推進委員の活動状況や認知度を高めるため継続した情報発信を行う。 新事業として派遣事業を実施する。	・三重県及び市主催の実技、リーダー研修会(参加者数:50人) ・レクリエーション協会などと共同した体験会の開催(2回)	
		レクリエーション協会		スポーツ教室開催事業 (レクリエーション協会)	・ニューススポーツ連続講習会 ・県スポーツフェスティバルへの参画 ・県レクリエーションインストラクター養成講座への参加	気軽にレクリエーション種目を楽しむことができる。	・ニューススポーツ講習会 ・ポッチャ教室(9月・1月) ・県スポーツフェスティバルへの参画 ・ユニバーサリティスポーツ大会の開催	B	障がいのある人を対象にポッチャ教室を中心に実施している。他の種目も検討する。	・ニューススポーツ講習会(3回) ・県スポーツフェスティバルへの参画(1回) ・県レクリエーションインストラクター養成講座への参加(1回)	

#### ②成人のスポーツ活動

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A～G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
5	健康マイレージ の普及	健康推進課	1日1回体操をする、1日6,000歩を歩く等、自分で決めた目標達成に応じてポイントを付与し、スポーツ実施へのインセンティブを図ります。		応募実人数:600人 応募延べ人数:1,500人	健康マイレージ事業をきっかけに、運動や健康づくりの習慣が身につく。	健康マイレージ事業の参加により、運動習慣等健康づくりの習慣が身につくきっかけづくりになっています。年々応募人数(述べ人数)も増えています。	B	20代30代の若年層の参加が少ないため、啓発が必要です。	応募実人数:600人 応募延べ人数:1,500人	
6	健康づくり教室	健康推進課	健康増進法に基づくメタ予防などを目的にストレッチ体操など楽しみながら講座を行います。	各団体等からの要請に応じて、保健師やまちの講師が。昨年度より、行政チャンネルを利用した、自宅でできる健康づくりを呼び掛けています。	・出前講座回数:40回 ・まちの講師:20回 ・いが忍にん健康プロジェクト:28回	いが忍にん健康プロジェクトを活用し、自宅で運動など健康づくりに取り組める。また、出前講座では仲間と健康づくりを楽しむことができる。	コロナ禍ではありましたが、各団体からの申請が増え、出前講座やまちの講師による出前講座の回数が増えました。	A	出前講座等を通して、個人や団体の健康づくりの習慣が身につけられるような働きかけが必要です。	・出前講座回数:51回 ・まちの講師:28回 ・いが忍にん健康プロジェクト:24回	
7	【再掲】 総合型地域ス ポーツクラブの 運営	総合型地域スポーツ クラブ	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	スポーツ教室開催事業	・各クラブでの教室開催(6団体 350人) ・ブロック別ミーティングへの参加	地域の身近な環境でスポーツを実施できる。	・教室開催 神戸(3B体操スロートレーニング教室 49人) ・フューチャーズ(ルディックウォーキング 235人) ・府中(健康体操・3B体操 44人) ・大山田(親子カヌー 20人 ヨガ教室 25人 ・トランポリン教室 9人 ピラティス体験会 11人) ・ブロック別ミーティングへの参加	B	クラブの認知度向上を図り、活動への参加者を増やす。 また運営を行うスタッフが不足していることから指導者の育成を行う。	・各クラブでの教室開催(6団体 500人) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人)	
		スポーツ振興課		クラブ運営への助言	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加 ・クラブ協議会の開催(2回) ・クラブ認知度の向上のためのインセティブの検討	訪問を通じて県内の他クラブの運営ノウハウなどを提供し、クラブ運営の強化を図る。	・各クラブ訪問の実施 ・ブロック別ミーティングへの参加 ・連絡協議会の開催 ・クラブ認知度の向上	A	クラブの認知度を高めるため、継続した情報発信の強化や、適切な運営に努める。 また事業に参加するきっかけの仕組みとしてインセティブ付与など検討する。	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人) ・クラブ協議会の開催(3回) ・クラブ認知度の向上のためのインセティブの検討	

③高齢者のスポーツ活動

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
8	介護予防普及啓発事業	介護高齢福祉課 (社会福祉協議会へ委託)	3B体操などを活用し、体を動かすことで介護状態に陥ることなく健康で生き生きとした生活を送れるように図ります。	認知症・介護予防教室を開催する	開催回数100回 参加延べ人数:1,200人	教室へ参加することで、社会的孤立を防ぐこと、さらに体を動かすことで運動機能の低下を予防することができる。	各団体からの申請により、公民館や集会所などに講師を派遣して開催。 ・音楽療法3B体操教室 ・介護予防教室	A		利用者を減少させないよう、委託事業者の支援を継続する。	開催回数:500回 参加延べ人数:6,800人
9	講座や教室の開催	介護高齢福祉課 生涯学習課	関係団体と連携し、新しい軽スポーツ等を体験できる場の提供など、市民が新しい楽しみを見つけられる教室を開設します。	認知症・介護予防教室を開催する	開催回数100回 参加延べ人数:1,200人	教室へ参加することで、社会的孤立を防ぐこと、さらに体を動かすことで運動機能の低下を予防することができる。	各団体からの申請により、公民館や集会所などに講師を派遣して開催。 ・音楽療法4B体操教室 ・介護予防教室	A		利用者を減少させないよう、委託事業者の支援を継続する。	開催回数:500回 参加延べ人数:6,800人
		伊賀市文化都市協会	関係団体と連携し、新しい軽スポーツ等を体験できる場の提供など、市民が新しい楽しみを見つけられる教室を開設します。	スポーツ施設を活用した自主事業開催	グラウンドゴルフ大会 参加延べ人数 2,300人 フィットネス、マットエクササイズ等の10種目:参加延べ人数 5,000人 ルディックウォーキング 参加者数 100人	スポーツを身近に楽しむことで生涯にわたる体を動かすきっかけが図れる。	・グラウンドゴルフ仲間 ・グラウンドゴルフBUNTO杯 ・フィットネス教室 ・ルディックウォーキング体験	B	新規利用者獲得のため広く周知を行う。また、内容のブラッシュアップを図る。	グラウンドゴルフ大会 参加延べ人数 2,300人 フィットネス、マットエクササイズ等の10種目:参加延べ人数 5,000人 ルディックウォーキング 参加者数 100人	
10	【再掲】 総合型地域スポーツクラブの運営	総合型地域スポーツクラブ	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	スポーツ教室開催事業	・各クラブでの教室開催(6団体 350人) ・ブロック別ミーティングへの参加	地域の身近な環境でスポーツを実施できる。	・教室開催 神戸(3B体操スロートレーニング教室 49人) フューチャーズ(ルディックウォーキング 235人) 府中(健康体操 3B体操 44人) 大山田(親子カヌー 20人 ヨガ教室 25人) トランポリン教室 9人 ピラティス体験会 11人) ・ブロック別ミーティングへの参加	B		クラブの認知度向上を図り、活動への参加者を増やす。 また運営を行うスタッフが不足していることから指導者の育成を行う。	・各クラブでの教室開催(6団体 500人) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人)
		スポーツ振興課		クラブ運営への助言	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加 ・クラブ協議会の開催(2回) ・クラブ認知度の向上のための検討	訪問を通じて県内他クラブの運営ノウハウなどを提供し、クラブ運営の強化を図る。	・クラブ訪問の実施 ・ブロック別ミーティングへの参加 ・連絡協議会の開催 ・クラブ認知度の向上	A		クラブの認知度を高めるため、継続した情報発信の強化や、適切な運営に努める。 また事業に参加するきっかけの仕組みとしてインセンティブ付与など検討する。	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人) ・クラブ協議会の開催(3回) ・クラブ認知度の向上のためのインセンティブの検討
11	【再掲】 健康マイレージの普及	健康推進課	1日1回体操をする、1日6,000歩を歩く等、自分で決めた目標達成に応じてポイントを付与し、スポーツ実施へのインセンティブを図ります。	健康マイレージの普及	応募実人数:600人 応募延べ人数:1,500人	健康マイレージ事業をきっかけに、運動や健康づくりの習慣が身につく。	健康マイレージ事業の参加により、運動習慣等健康づくりの習慣が身につくきっかけづくりになっています。年々応募人数(述べ人数)も増えています。	B		20代30代の若年層の参加が少ないため、啓発が必要です。	応募実人数:600人 応募延べ人数:1,500人
12	忍にん体操の普及	健康推進課	忍にん体操普及と会と連携し、普及・啓発を行います。	忍にん体操の普及	出前講座5回延べ400人参加	出前講座等の機会を通じ、忍にん体操で、楽しみながら体を動かす習慣が身につく。	各団体からの忍にん体操普及と会への申請が増え、忍にん体操を広めることができました。	A		忍にん体操を広めることで、運動習慣を身につけようすることが必要です。	出前講座:10回・延べ400人参加

④障がい者のスポーツ活動

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
13	バラスポーツの普及	障がい福祉課	「ポッチャ」など、ユニバーサルスポーツの体験・競技会をとおして広く市民へ普及・啓発を行います。	障がい者やバラスポーツへの理解を深めるため、県や関係団体等からのバラスポーツ開催案内について、周知啓発を行う。	県等からの情報提供回数:9回	障がいのある人のスポーツの参加機会の提供や、障がいのあるなしに関わらず、バラスポーツへの理解を深める	・関係団体等への情報提供 ・窓口へのチラシ設置	A		障がいのあるなしに関わらず、バラスポーツへの理解を深めるため、市民及び関係団体への情報提供や周知、啓発を行う必要がある。	県等からの情報提供回数:18回
		スポーツ振興課 レクリエーション協会		三重県レクリエーション協会と連携した事業の実施 2回 市の行事等に対する協力 3事業	広く市民がレクリエーションに親しむことができる。	・連携事業の実施 ・市の行事等への協力	B		障がいのある方を中心にポッチャ教室等を実施している。他の種目の実施も検討していく。	三重県レクリエーション協会と連携した事業の実施 2回 市の行事等に対する協力 3事業	
14	障がい者スポーツ大会への支援	障がい福祉課	障がいのある人が主体的に社会参加活動に取り組めるよう、スポーツ大会への支援を行います。	障がいのある人が主体的に取り組む活動を支援するため、障がい者団体活動の「障がい者スポーツ大会」に対し支援を行う。	障がい者スポーツ大会の参加者数:500人	スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、障がいのある人が主体的に参加できる機会の充実を図る。	・障がい者スポーツ大会:中止	E	開催予定していたが、開催予定会場の大規模修繕のため開催できなかった。	障がい者団体の活動に対する支援を行うとともに障がい者スポーツ大会の開催に向けて、障がい者団体が関係団体と連携を図る必要がある。	障がい者スポーツ大会の参加者数:500人

【施策2】子どもの体力向上

体力向上とスポーツが好きになれる取組みの推進

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A～G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)	
15	保育所(園)・幼稚園での「からだそだて」の実施	保育幼稚園課	発達に合った運動遊びを取り入れた「にんにんタイム」を実施し、子どもたちの体力向上や基礎的な運動能力を高めます。	幼児の体力向上実践プログラム「にんにんタイム」	幼稚園・保育所(園)において「にんにんタイム」を設定し、発達段階に合わせた運動遊びを実践する。	子どもたちの体力向上や基礎的な運動能力を高めることができる。	幼稚園・保育所(園)において「にんにんタイム」を設定し、発達段階に合わせた運動遊びを日々の保育に取り入れ、からだ育てを行った。	B		子どもの発達を踏まえ、あそびの中で楽しく取り組める「にんにんタイム」を工夫する。	幼稚園・保育所(園)において「にんにんタイム」を設定し、発達段階に合わせた運動遊びを実践する。	
		学校教育課	発達に合った運動遊びを取り入れた「にんにんタイム」を実施し、子どもたちの体力向上や基礎的な運動能力を高めます。	子どもたちの体力向上のため、ルールを工夫した鬼ごっこやけんけん、雨の日は屋内でハイハイをするなど、楽しく体を動かすことのできるトレーニング(「にんにんタイム」)を継続的に行う。	「にんにんタイム」の毎日実施	引き続き「にんにんタイム」を行い、子どもたちの体力や基礎的な運動能力の向上に努める必要がある。	毎日(雨天でも)年少児20分、年中児30分、年長児40分の運動遊び「にんにんタイム」を行った。継続することで、運動能力が向上した。	年間登園数 約180回	A	運動の中に、思考力・判断力・表現力の育成ができるよう工夫が必要である。安全に考慮しつつ、幼児が主体性をもって挑戦できるような環境をつくって継続していく。	「にんにんタイム」の毎日実施(年間登園数:約180回)	
16	学校体育カリキュラムの実施	学校教育課	体育授業、運動会などの機会を通して、子どもの体力向上やスポーツ好きの子どもが増えるよう図ります。	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によって明らかになった自校の課題解決のため、体育の授業改善や運動の日常化・運動時間の確保をめざした取組(1学校1運動)を行う。	1学校1運動を設定した学校:29校	1学校1運動に取り組む、子どもたちの体力向上やスポーツ好きの子どもが増えるよう図る。	1学校1運動を設定した学校	29校	A	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し作成した「元気アップシート」をもとに、今後も、子どもたちの体力向上を図り、スポーツ好きの子どもが増えるよう取り組む。	1学校1運動を設定した学校:28校	
17	課外体育(クラブ活動)での専門講師の活用	学校教育課	部活動の指導について部活動指導員を配置するなど体力・競技力の向上を図ります。	中学校の運動部活動の指導について、経験と知見を有した部活動指導員を配置する(部活動指導員配置促進事業)。	部活動指導員配置人数:6人	地域の指導者の確保に努め、より充実した活動となるよう図る。	部活動指導員配置人数	6人	A	引き続き、地域の指導者の確保に努め、生徒のスポーツに親しむ機会を確保していく。	部活動指導員配置人数:6人	
18	体力・運動能力等の調査	学校教育課	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告」を活用し、子どもの体力や運動能力を把握するとともに、課題に向けた取組の検証を行います。	小学校5年生、中学校2年生を対象に実施した調査の報告書をもとに、各校で子どもの体力や運動能力、運動習慣等について分析を行い、「元気アップシート」を作成し、学校内で共有を図る。	調査対象児童生徒数 小学校702人 中学校713人 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国平均値	子どもたちの体力や運動能力の向上、運動習慣等の確立を図る。	調査実施児童生徒数(小学校664人 中学校642人) ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比	小学校 97.80% 中学校 96.69%	A	引き続き、各校で作成した「元気アップシート」を学校内で共有し、課題の解決に向けた取組を学校全体で行う。	調査実施対象児童生徒数 小学校674人・中学校688人 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点全国比 小学校98%・中学校97%	
19	ACP(アクティブチャイルドプログラム)活動	スポーツ少年団 スポーツ振興課 総合型地域スポーツクラブ	楽しみながら積極的に体を動かし身体活動の習慣化を促します。	ACP(アクティブチャイルドプログラム)実施事業	プログラムの実施(参加者数:50人)	子どもたちの体力や運動能力の向上、運動習慣等の確立を図る。	ACP(アクティブチャイルドプログラム)の実施	未実施	D	伊賀市民スポーツフェスティバルでの開催を検討したが実施に至らず、健康体操を実施	三重県との連携など実施に向けた検討を行う。	ACP(アクティブチャイルドプログラム)の実施(参加者数:50人)
20	【再掲】 スポーツ少年団運営事業	スポーツ振興課			・スタートコーチ制度移行へ向けた情報提供及び養成講習会の開催(4回) ・人権講習会の開催(1回)	指導者の資質の向上を図り指導力の強化が行える。	・情報提供及び養成講習会の開催 ・人権講習会の開催	2回 1回	B	指導者の資質向上のため研修会等を継続開催する。	・スタートコーチ情報提供及び養成講習会の開催(4回) ・人権講習会の開催(1回)	
		スポーツ少年団	少年期から幅広いスポーツに親しみ、体を動かすことの楽しさに触れることで、スポーツ活動を通じた子どもたちの健全育成を図ります。	青少年スポーツ活動育成事業	・各単位団における日々のスポーツ活動(36団) ・本部長杯種目大会の開催(3回 300人) ・駅伝大会やスポ少大会などの合同大会の開催(2回 400人) ・県、東海大会への参加 ・加入案内パンフレットの作成	体力向上や単位団同士の交流、スポーツをするきっかけが提供できる。	・単位団数 ・本部長杯種目別大会の開催 軟式野球(7団103人) サッカー(11団179人) バレーボール(11団108人) ・合同大会の開催 スポ少大会(11団102人) 駅伝大会(22団389人) 交流会(8団111人) ・県、東海大会への参加 ・加入案内パンフレットの作成	36団 3回(390人) 103人 179人 108人 3回(602人) 102人 389人 111人 6団 4,000部	A	少子化により団員数が減少傾向にある中、継続してスポーツ少年団の認知度を高め、スポーツをするきっかけづくりとして活動を推進する。	・各単位団における日々のスポーツ活動(36団) ・本部長杯種目大会の開催(4回 500人) ・駅伝大会やスポ少大会などの合同大会の開催(3回 700人) ・県、東海大会への参加(7団) ・加入案内パンフレットの作成(4,000部)	
21	【再掲】 レクリエーションスポーツの普及	スポーツ推進委員 住民自治協議会		スポーツ推進委員活動事業	・自治協議会のスポーツ部会等への参画 ・地域行事での実技種目の指導(指導地域数:6地域)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を提供できる	・スポーツ部会への参画 ・地域行事での実技指導	未実施	D	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を強化する。	・自治協議会のスポーツ部会等への参画 ・地域行事での実技指導(派遣地域数:6地域) ・実技研修会の開催(3回/年) また、実技研修会を実施し、各委員のスキルの向上を図る。	
		スポーツ振興課 スポーツ推進委員	レクリエーション協会などと連携し、子どもが気軽に参加でき、家庭で楽しめるレクリエーションの普及を行います。	スポーツ推進委員活動事業	・三重県及び市主催の実技、リーダー研修会(参加者数:20人) ・レクリエーション協会などと共同した体験会の開催(2回)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を提供できる	・実技研修・リーダー研修への参加 (ポッチャ、カローリング研修会) ・レクリエーション協会連携事業の開催	23人 2回	A	スポーツ推進委員の活動状況や認知度を高めるため継続した情報発信を行う。 新事業として派遣事業を実施する。	・三重県及び市主催の実技、リーダー研修会(参加者数:50人) ・レクリエーション協会などと共同した体験会の開催(2回)	
		レクリエーション協会		スポーツ教室開催事業(レクリエーション協会)	・ニュースポーツ連続講習会の開催 ・県及び市スポーツフェスティバルへの参画 ・県レクリエーションインストラクター養成講座への参加	レクリエーションに親しむことで、楽しく自然に子どもの体力を向上させることができる。	・ニュースポーツ講習会 ポッチャ教室(9月・1月) ・県スポーツフェスティバルへの参画 ユニバーサリティスポーツ大会の開催	2回 1回	B	障がいのある方を対象にポッチャ教室を中心に実施している。他の種目の実施も検討していく。	・ニュースポーツ講習会(3回) ・県スポーツフェスティバルへの参画(1回) ・県レクリエーションインストラクター養成講座への参加(1回)	
22	【再掲】 総合型地域スポーツクラブの運営	総合型地域スポーツクラブ	地域住民のスポーツ活動を推進するため、世代横断型のスポーツ教室等を開催します。	スポーツ教室開催事業	・各クラブでの教室開催(6団体 350人) ・ブロック別ミーティングへの参加	地域の身近な環境でスポーツを実施できる。	・教室開催 神戸(3B体操スロートレーニング教室 49人) フューチャーズ(ノルディックウォーキング 235人) 府中(健康体操・3B体操 44人) 大山田(親子カヌー 20人 ヨガ教室 25人 トランポリン教室 9人 ピラティス体験会 11人) ・ブロック別ミーティングへの参加	4団体(393人) 49人 235人 44人 65人 10人		クラブの認知度向上を図り、活動への参加者を増やす。 また運営を行うスタッフが不足していることから指導者の育成を行う。	・各クラブでの教室開催(6団体 500人) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人)	
		スポーツ振興課		クラブ運営への助言	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加 ・クラブ協議会の開催(2回) ・クラブ認知度の向上のための検討	訪問を通じて県内の他クラブの運営ノウハウなどを提供し、クラブ運営の強化を図る。	・クラブ訪問の実施 ・ブロック別ミーティングへの参加 ・連絡協議会の開催 ・クラブ認知度の向上	3団体(年1回) 10人 3回 雑誌(年3回)	A	クラブの認知度を高めるため、継続した情報発信の強化や、適切な運営に努める。 また事業に参加するきっかけの仕組みとしてインセンティブ付与など検討する。	・各クラブ訪問の実施(年1回) ・ブロック別ミーティングへの参加(15人) ・クラブ協議会の開催(3回) ・クラブ認知度の向上のためのインセンティブの検討	

2 基本目標 スポーツを「みる」スポーツ活動の普及・啓発

成果目標:スポーツ観戦に関心がある人の割合(75%⇒90%(令和8年度))

【施策3】みるスポーツの推進

①スポーツチーム等との連携

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
23	伊賀FCノース三重との連携	スポーツ振興課	地元で活動する「伊賀FCノース三重」の試合や市民交流イベントなどの情報を提供し、市民にスポーツを身近に感じてもらえる機会の提供に努めます。	・伊賀FCノース三重に関する情報提供 ・伊賀フットボールクラブ助成事業	HPやSNS等の媒体を活用したチーム情報の発信(随時)	ホームが一体となったチーム運営を目指す	HPやSNS等の媒体を活用したチーム情報の発信	A		ホームタウンの強みを生かした継続した情報発信を継続する。	HPやSNS等の媒体を活用したチーム情報の発信(随時)
		株式会社伊賀FCノース三重 ・特定非営利活動法人伊賀FCノース									

②スポーツを活用した地域の魅力発信や誘客

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
24	スポーツイベントなどの発信	スポーツ振興課 各実施主体	様々な媒体を活用し、市内(全国)におけるスポーツイベントや全国大会出場者などスポーツ選手などの紹介を通じて、スポーツへの関心を高められるよう広報を行います。	・全国大会出場者奨励事業 ・スポーツ行事等の周知案内	【伊賀市】 ・全国大会出場者の表敬訪問、及び優秀成績者のHP等への掲載(随時) ・広報へのコラム連載(12回) ・スポーツへの関心を高めるため、HP、SNS等への掲載(随時) ・スポーツイベントの開催周知 【スポーツ協会】 ・スポーツ広報誌『忍び』の発行(年2回) 【総合型スポーツクラブ】 ・各総合型スポーツクラブによる広報(随時)	スポーツ行事の参加機会の確保と、関心を高める	【伊賀市】 ・表敬訪問 BMX・ゲートボール・サッカー・ダブルタッチ・テニス・駅伝 綱引き・野球・水泳・体操・卓球 ・優秀成績者HP掲載 ・広報へのコラム連載 ・HP、SNS等への掲載 ・スポーツイベントの開催周知 【スポーツ協会】 ・スポーツ広報誌『忍び』の発行 【総合型スポーツクラブ】 ・総合型スポーツクラブ広報誌発行	A		・市のFacebookやHP、広報誌を活用した情報発信を継続して実施し、スポーツへの関心を高める。 ・スポーツ協会や総合型スポーツクラブの広報誌発行を継続し、各団体の認知度向上や市民のスポーツへの関心を高める。 ・見てもらえる、読んでもらえる情報となるよう更なる工夫を行う。	【伊賀市】 ・全国大会出場者の表敬訪問(25回) ・優秀成績者のHP等への掲載(10回) ・広報へのコラム連載(6回) ・スポーツへの関心を高めるため、HP、SNS等への掲載(25回) ・スポーツイベントの開催周知(4回) 【スポーツ協会】 ・スポーツ広報誌『忍び』の発行(年2回) 【総合型スポーツクラブ】 ・各総合型スポーツクラブによる広報(年4回)

【施策4】地域活性化やふれあい機会の醸成

地域スポーツの推進

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
25	スポーツ推進委員運営事業	スポーツ振興課 スポーツ推進委員	市民へのスポーツの実技指導や地域スポーツに関する指導助言を行います。また、スポーツ推進委員に対する研修の充実を図ります。	スポーツ推進委員活動事業	・三重県及び市主催の実技、リーダー研修会(参加者数:20人) ・レクリエーション協会などと共同した体験会の開催(2回)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を提供できる	・実技研修・リーダー研修への参加(ポッチャ、カローリング研修会) ・レクリエーション協会連携事業の開催	A		スポーツ推進委員の活動状況や認知度を高めるため継続した情報発信を行う。 また、新事業として派遣事業を実施する。	・三重県及び市主催の実技、リーダー研修会(参加者数:50人) ・レクリエーション協会などと共同した体験会の開催(2回)
26	地域でのスポーツ行事の開催	住民自治協議会区(自治会) スポーツ推進委員	各地域での運動会や体験会を通じて市民へのスポーツ活動の関心を深め、体を動かすことで体力向上や親睦を深める交流を行います。	スポーツ推進委員活動事業 スポーツ教室開催事業	・自治協議会のスポーツ部会等への参画 ・地域行事等での実技種目の指導(指導地域数:6地域)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を提供できる	・スポーツ部会への参画 ・地域行事での実技指導	D	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境の一つとしてスポーツ推進委員派遣事業を検討し、令和5年度実施	新事業として実施する派遣事業の周知、認知度向上のため情報発信を強化する。 また、実技研修会を実施し、各委員のスキルの向上を図る。	・自治協議会のスポーツ部会等への参画 ・地域行事での実技指導(派遣事業)(指導地域数:6地域) ・実技研修会の開催(3回/年)
27	学校体育施設開放事業	学校教育課 スポーツ振興課	小中学校の体育館やグラウンドを学校運営に支障のない範囲で地域や団体に開放します。施設を有効活用し、スポーツの場を提供することで地域スポーツの活性化を図ります。	学校体育施設開放事業	登録団体に学校施設を開放する(通年)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を提供できる	学校施設の開放 小学校(18校) 登録団体数 152団体 延べ利用日数 4,676日 延べ利用者数 99,505人 中学校(10校) 登録団体数 81団体 延べ利用日数 2,523日 延べ利用者数 51,779人	A		鍵の管理など利用しやすい環境を教育委員会と調整し進める。	登録団体に学校施設を開放する(通年) ・小学校(18校) 登録団体数130団体 延べ利用日数3,100日・延べ利用者数63,000人 ・中学校(10校) 登録団体数80団体 延べ利用日数1,850日・延べ利用者数36,500人

3 基本目標 スポーツを「ささえる」スポーツ環境の体制整備・施設最適化  
 成果目標:スポーツ施設の平均稼働率(41.51%⇒55.15%(令和8年度))

【施策5】競技スポーツの支援・連携

トップ選手の競技力向上とスポーツ協会との連携

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
28	全国大会出場者支援事業	スポーツ振興課 スポーツ協会	全国大会へ出場する選手を称揚し、激励金の交付や表彰状の付与を行い選手の競技意欲の向上を図ります。また、懸垂幕の掲出やバブルリックビューイングなど、応援する場の設置を行います	・スポーツ振興事業 ・社会体育振興事業委託 ・伊賀市スポーツ協会運営補助	【伊賀市】 ・全国大会出場者を称え、スポーツに対する関心を高める(随時) 【スポーツ協会】 ・優秀選手等の表彰(3個人、9団体) ・全国大会出場者派遣費助成	全国大会出場者を支援することで、スポーツへの関心を高める。	【伊賀市】 ・全国大会等の出場者表敬訪問 ・奨励金の交付(個人 22人 団体 11団体) ・懸垂幕の掲出 サッカー 日本代表(町野選手)応援(11月) 伊賀白鳳高校駅伝部出場(12月) 【スポーツ協会】 ・優秀選手等の表彰(個人1・団体7) ・全国大会出場者派遣費助成(3団体)	B		全国大会等出場者への支援を継続して実施する。	【伊賀市】 ・全国大会出場者を称え、スポーツに対する関心を高める 全国大会等出場表敬訪問(25回) 奨励金交付(個人:25人・団体:15団体) 懸垂幕掲出(3回) 【スポーツ協会】 ・優秀選手等の表彰 12件(個人3人、団体:9団体) ・全国大会出場者派遣費助成(4団体)
29	スポーツ協会運営支援事業	スポーツ振興課 スポーツ協会	競技種目の技術力向上を図るため、各種目協会及び団体が所属するスポーツ協会への支援を行います。	・社会体育振興事業委託 ・伊賀市スポーツ協会運営補助	【伊賀市】 スポーツ協会の運営を支援するとともに、競技力の向上を図る。 【スポーツ協会】 種目競技における競技力の向上を図る。	加盟団体を支援することによりスポーツの底辺が支えられることにつながる。	【伊賀市】 ・スポーツ協会運営支援 伊賀市スポーツ協会運営補助金(3,420,918円) 伊賀市社会体育振興事業業務委託(4,629,536円) 【スポーツ協会】 ・種目団体の競技力向上 組織強化費の交付(24種目協会・2地域団体) 機関紙発行【スポーツ忍】(年2回・全戸配布)	A		加盟団体への支援を継続して実施する。	【伊賀市】 スポーツ協会の運営を支援するとともに、競技力の向上を図る 伊賀市スポーツ協会運営補助金(3,500,000円) 伊賀市社会体育振興事業業務委託(5,233,000円) 【スポーツ協会】 種目競技における競技力の向上を図る 組織強化費交付(26団体) 機関紙発行【スポーツ忍】(年2回)

【施策6】指導者・ボランティアの人材育成と団体の自主財源の確保

①スポーツ指導者・ボランティアの育成と発掘

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
30	指導者の育成	指導者協議会 スポーツ協会 スポーツ少年団 総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課	各団体が自主的に指導者協議会などを活用し、専門性を確保しつつ後継の指導者を育成します。	社会体育振興事業委託	各団体において研修会や講習会の開催(随時)	研修会等が開催されることにより指導者の育成につなげることができる。	各団体の研修会や講習会の開催 【スポーツ指導者協議会】 ・スポーツ指導者研修会 30名 【スポーツ協会】 ・加盟団体の講習会 7種目団体 574人(21回) 【総合型スポーツクラブ】 ・登録・認証制度加入 4団体	B		加盟するすべての団体に指導者育成の講習会開催を目指す。	各団体において研修会や講習会の開催 【スポーツ指導者協議会】 ・スポーツ指導者研修会 45名 【スポーツ協会】 【総合型スポーツクラブ】 ・登録・認証制度加入 5団体
31	指導者のスキル向上	スポーツ協会 スポーツ少年団 総合型地域スポーツクラブ スポーツ振興課	総合型スポーツクラブの認証制度への移行などにより、各団体が自主的に競技種目の指導者スキル向上を行います。 ※認証制度とは、総合型地域スポーツクラブ全国協議会が定める登録基準を具備していると認められる登録クラブを認証することです。	社会体育振興事業委託	各団体において研修会や講習会の開催(随時)	研修会等が開催されることにより指導者の育成につなげることができる。	各団体の研修会や講習会の開催 【スポーツ協会】 ・加盟団体の講習会 7種目団体 574人(21回) 【スポーツ少年団】 ・スタートコーチ養成講習会 3回 【総合型スポーツクラブ】 ・登録・認証制度加入 4団体	B		加盟するすべての団体に指導者育成の講習会開催を目指す。	各団体において研修会や講習会の開催 【スポーツ協会】 【スポーツ少年団】 ・スタートコーチ養成講習会 3回 【総合型スポーツクラブ】 ・登録・認証制度加入 5団体
32	ボランティアの募集	各実行委員会 スポーツ協会 スポーツ振興課	スポーツイベント開催時に出場者募集と併せてボランティア募集を行ない、円滑なイベント実施と「ささえる」ことでのやりがいを育みます。	スポーツ振興事業	【伊賀市】 ボランティア活用制度化 【スポーツ協会】 在り方などの検討	参加することでスポーツへの理解が進むとともに、運営側の負担軽減にも資する。	【伊賀市】 ・ボランティア活用制度 シティマラソンボランティアスタッフ 【スポーツ協会】 ・実績なし	C	・シティマラソンにおいて、三重県スポーツ協会(スポーツ応援隊)と連携し、ボランティアを募集したが、ボランティア制度の構築には至っていない。	・シティマラソンでの継続したボランティア募集を行う。 ・また伊賀市スポーツ協会と連携した市内のスポーツ全般におけるボランティア制度の構築に向け検討する。	【伊賀市】 ボランティア活用制度化 【スポーツ協会】 在り方などの検討

②既存イベントの運営見直し

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
33	各種イベントの見直し	各実行委員会 スポーツ振興課	各実行委員会、スポーツ協会等とイベントの見直しについて検討します。	スポーツ振興事業	在り方も含め、継続的に協議を行う。	スポーツ事業の活性化	伊賀上野シティマラソン 1,559人 伊賀市民スポーツフェスティバル 1,010人 伊賀地区駅伝競走大会 44チーム	D	各事業のあるべき姿を明確化し、各団体との役割分担を考慮し見直しを行う必要がある	継続して課題の明確化とあるべき姿についての協議が必要	在り方も含め、継続的に協議を行う。
34	各団体の安定的・自立型運営	各団体 スポーツ振興課	事務局の在り方を含め各団体と協議します。	スポーツ振興事業	在り方も含め、継続的に協議を行う。	スポーツ事業の活性化	事務局の移管を含めた運営体制について当該団体と協議を行っているが現状では結論に至っていない。	D	各団体が自立できるような組織の強化が必要	継続して課題の明確化とあるべき姿についての協議が必要	在り方も含め、継続的に協議を行う。

【施策7】スポーツ施設整備と利便性の向上

①スポーツ施設の充実(計画的な施設改修・整備)

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
35	スポーツ施設 整備事業	スポーツ振興課	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づき老朽化が進む施設の改修や類似施設の統廃合、多機能化を行い競技環境の向上を図ります。また、新たなスポーツニース(アーバンスポーツ等)にも対応した施設の整備に向け取り組みます。	体育施設整備事業	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づき施設の改修を図る。また、新たなスポーツニース(アーバンスポーツ等)にも対応した施設整備の検討	安全な競技環境の整備が図られる。	施設の改修 上野運動公園武道館浄化槽制御盤取替修繕工事 大山田東体育館SOG取替修繕工事 阿山B&G海洋センタープール改修設計業務 アーバンスポーツ施設の整備検討	B		伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づき、財源にも配慮しながら継続して長寿命化を行う。またアーバンスポーツなど新たなニースに対する施設整備も検討する。	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づいた施設の改修 ・いがまちスポーツセンター開閉式テント屋根改修工事 ・上野武道館屋根防水改修工事 ・阿山B&G海洋センタープール改修工事 ・鳥ヶ原運動広場周辺施設防球工事 ・青山博愛体育館解体工事 新たなスポーツニース(アーバンスポーツ等)にも対応した施設整備の検討
36	施設維持管理 事業	スポーツ振興課 各指定管理者	日常の管理や予約受付等を行ない、安全で快適な競技環境を提供します。	体育施設維持管理事業(指定管理事業) 市直営施設維持管理事業	利用者の利便性の向上を図りつつ施設の適切な維持管理及を行うため、指定管理者に業務を委託する。	指定管理者による維持管理で修繕管理などが迅速に行えとともに、自主事業の開催などでスポーツ実施の機会が確保できる。	以下の施設を指定管理者へ委託 (利用者総数:309,905人、指定管理料総額:151,426,807円) ※伊賀市体育施設、しらさぎ運動公園、上野運動公園多目的広場 【公益財団法人伊賀市文化都市協会】 (利用者総数:136,107人、指定管理料総額137,928,807円) ※いがまちスポーツセンター (NPO法人いがまちスポーツクラブ) (利用者数:7,998人、指定管理料:11,004,000円) ※大山田東体育館、グラウンド(阿波地区住民自治協議会) (利用者数:165,800人、指定管理料:2,494,000円) ※プール、庭庫を除く施設稼働率(稼働日÷365日)64.9%	A		利用者が安全・快適に利用できるよう日々の維持管理を継続的に行うとともに、自主事業の実施によるスポーツ振興、さらには利用者数の増加を図る。	利用者の利便性の向上を図りつつ施設の適切な維持管理及を行うため、指定管理者に業務を委託する。 利用者総数:310,000人、指定管理料総額:150,165千円 ・伊賀市体育施設、しらさぎ運動公園、上野運動公園多目的広場 ・いがまちスポーツセンター ・大山田東体育館、グラウンド ・プール、庭庫を除く施設稼働率
37	学校体育施設 開放事業【再 掲】	学校教育課 スポーツ振興課	小中学校の体育館やグラウンドを学校運営に支障のない範囲で地域や団体に開放します。施設を有効活用しスポーツの場を提供することで地域スポーツの活性化を図ります	学校体育施設開放事業	登録団体に学校施設を開放する(通年)	身近な環境で気軽にスポーツを楽しめる環境を提供できる	学校施設の開放 小学校(18校) 登録団体数 152団体 延べ利用日数 4,676日 延べ利用者数 99,505人 中学校(10校) 登録団体数 81団体 延べ利用日数 2,523日 延べ利用者数 51,779人	A		鍵の管理など利用しやすい環境を教育委員会と調整し進める。	登録団体に学校施設を開放する(通年) ・小学校(18校) 登録団体数130団体 延べ利用日数3,100日・延べ利用者数63,000人 ・中学校(10校) 登録団体数80団体 延べ利用日数1,850日・延べ利用者数36,500人

②利便性のある実施環境の提供

通番	事業名	担当課 関係団体	概要	個別事業の名称など	令和4年度 取組計画・目標数値(方針)	見込まれる効果	令和4年度 実績	自課評価 (A~G)	評価がC、D、Eの場合の補足説明	次年度への課題	令和5年度 取組計画・目標数値(方針)
38	施設利用の利 便性の向上	スポーツ振興課 各指定管理者	SNSを活用した予約システムの導入を検討するとともに、施設案内などの情報を充実させ利用者の利便性の向上を目指します。またバリアフリー環境の充実を施設改修に併せ実施する等使いやすい環境を整えます。	体育施設整備事業	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づき施設の改修を図る。 予約システムなど利便性向上に向けた検討を引き続き行う。 パラスポーツ普及に関する用具等の配備を行う。	安全・快適な競技環境の整備が図られる。	施設の改修 上野運動公園武道館浄化槽制御盤取替修繕工事 大山田東体育館SOG取替修繕工事 阿山B&G海洋センタープール改修設計業務 パラスポーツ普及に関する用具配備 パラスポーツ(SSピンポン)備品購入	B		伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づき、財源にも配慮しながら継続して長寿命化を行う。また予約システムの導入検討も進める。	伊賀市スポーツ施設再編・整備計画に基づいた施設の改修。 ・いがまちスポーツセンター開閉式テント屋根改修工事 ・上野武道館屋根防水改修工事 ・阿山B&G海洋センタープール改修工事 ・鳥ヶ原運動広場周辺施設防球工事 青山博愛体育館解体工事 予約システムなど利便性向上に向けた検討を引き続き行う。 パラスポーツ普及に関する用具等の配備を行う。